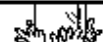




読書は充実した人間をつくり、会話は機転の利く人間をつくり、執筆は緻密な人間をつくる。(フランシス・ベーコン=哲学者)



「打って出る司書」の巡回訪問終了 搬送訪問・出前研修等は継続中 市町村立図書館・公民館図書室の取組から

今年度予定していた「打って出る司書」の巡回訪問が、11月をもって終了しました。今後も運営課題解決サポートや出前研修の訪問は行っていくしますので、県立図書館にご相談ください。

「打って出る司書」の市町村訪問は、昨年度延べ119館室でしたが、今年度は地区担当者を中心に延べ240館室を予定しています。これまで市町村を訪問してきた司書たちは、「直接顔を合わせる回数が増えたことと地区別の担当制にしたことで、管理職や決まった職員と顔を合わせるのではなく、実際にカウンター業務を行っている職員のみなさんとも詳しくやり取りができるようになり、情報収集や助言に役立っています。」と話しています。

また、複数回訪問することにより、前回の訪問で課題の対応策として情報提供したことが、改善に結びついている状況を次の訪問で確認することもできたようです。

例えば、横手市立十文字図書館ではテーマズコーナーの設置が課題でしたが、後期訪問では二つのコーナーが設置されていました。



十文字きつずいてーんずコーナー

大仙市立西仙北図書館には、児童サービスの新しいイベントとして、絵本の福袋による貸出を紹介したところ、読書週間で



西仙北図書館の絵本の福袋

実施しました。地域の方々に非常に好評だったので、その後も継続しているとのことでした。

「打って出る司書」たちは、「貸出冊数や図書購入費などが全国平均を下回る現状の中で、実際に市町村立図書館や公民館図書室に足を運んでみると、職員のみなさんの熱意と工夫で地域の人たちに親しまれているのが分かります。今年度できたつながりを基に、より役立つ情報提供や図書館サービスのお手伝いをしていきたいと思えます。」と来年の訪問に向けて意欲を語っています。

11月の「打って出る司書」

<訪問した市町村立図書館・公民館図書室の数>

県北	県央	県南
0館室	8館室	12館室

あきた文学資料館 文学セミナー開催

原景都市秋田

・そして日本文学とは

—私の文学史③

あきた文学資料館では、文学作品をより深く読むことにより、知識と交流を深めるため「文学セミナー」を開催しています。

12月13日(金)、今年度最後のセミナーが行われました。講師の日本近世文学研究者である井上隆明先生は、これまでの32回のセミナーのまとめとして、日本文学の光と影の都市構造と秋

田の原景や、「境界」「輪廻」「中世歌論」「笑い」をキーワードにした文学解析などについて、ユーモアを交えて語り、14名の参加者を魅了しました。



熱心にメモを取りながら聞き入る参加者たち

毎回参加しているという女性は、「信念を曲げること無く、しかし筋を通しながら、歯に衣を着せず世相にずばずば切り込むところが、先生の魅力です。また、幅広い知識に学ぶことがたくさんあります。」と話していました。

わらべの冬まつり 開催

—「子どもゆめ基金助成活動」—

12月15日(日)、読み聞かせボランティアグループ「来聞の会」が主催する「わらべの冬まつり」が、大館市の北部老人福祉総合エリアで行われ、読みきかせ、ダンボールシアター、わらべうたなどを、延べ150名の親子連れなどが楽しみました。



参加型のイベントを楽しむ親子

午前中は、劇団風の子による、手遊び、紙遊び、ダンボールシアターが行われました。「丸めたこの紙は何に見えるだろう。」「この次はどうしようか。」と問いかけながら、おはなしが進んで行くので、子どもたちはいろいろなことを想像しながら、夢中になって答えていました。また、ダンボールでできた舞台が、美しく



「ちいさなむらのちいさながっこう」の1シーン

「去年もこのイベントに参加しましたが、うちに帰ると、子どもたちはたくさん絵本を持って来て、読んでほしいとせがむんですよ。」と話していました。

また、この日は大館国際情報学院高等学校の生徒12名もボランティアとして参加し、子どもたちを座席に誘導したり、かけ声でおはなしを盛り上げたりしていました。初めて参加した女子生徒は、「子どもが好きで、一緒におはなしを楽しみたいんです。」と言いながら、うれしそうに子どもたちの世話をしていました。

早変わりすると、大人たちからもため息が漏れていました。

2人のお子さんを連れた女性は、「去年もこのイベ



手遊びに参加する高校生

ントに参加しましたが、うちに帰ると、子どもたちはたくさん絵本を持って来て、読んでほしいとせがむんですよ。」と話していました。



『家族におくる一冊』メッセージコンテスト入選作品紹介

<中学生・高校生の部>



『くじけないで』(飛鳥新社)
柴田トヨ・著
秋田県立十和田高等学校2年
池田 梨佳さん
トヨさんの言葉は、祖母がいつも私に言ってくれる言葉とよく似ている。だから、祖母はこの本に共感でき、元気をもらえるのだと思った。幼い私を母親の代わりに育ててくれた祖母に、親孝行のつもりでおくりたい。

『一瞬の風になれ』(講談社)
佐藤多佳子・著
秋田大学教育文化学部附属中学校1年
鎌田 奈菜子さん
お母さんは走りながら風の音を聞いたことがある?私は毎日部活で風を味わっているよ。まだ風を感じるほど速く走れないお母さんにこの本で風の音の聞き方を感じ取って欲しい。ジョギングガンバ。私も陸上部頑張るよ。

『きみの友だち』(新潮文庫刊)
重松清・著
秋田市立桜中学校3年
工藤 真珠さん
どんな友達が欲しいですか?どんな人を友達と呼びますか?この本の恵美ちゃんと由香ちゃんは、きっと「本当の友達」を教えてください。「2人みたいな友達を作りなさい」と、読めば伝えたくありません。大切な家族に。

『ハッピーバースデー』(金の星社)
青木和雄/吉富多美・著
能代市立能代第二中学校1年
佐藤 菜志呂さん
「お母さんなんて、大嫌い」。そんなことを言ったときもあったね。でも、私のことを嫌いにならない、って信じていたから言えたんだよ。でもね、愛してもらえない子供もいるんだって。お母さん、私を愛してくれてありがとう。

『Good Luck グッドラック』(ポプラ社)
アレックス・ロビラ/フェルナンド・トリアス・デ・ベス・著
田内志文・訳
大仙市立南外中学校3年 武藤 みのりさん
仕事や学校生活で忙しい私の家族。顔や口には出さないけど悩みやつかれがあると思う。この本を読めば、幸せになるのに年齢は関係ない、今すぐにも幸せになれると思ってくれるはず。心の支えになってくれれば嬉しい。

